

「夢を勝ち取る勉強法」……………作成 鈴木 高義

1、合格の必要条件とは、

・「制限時間内」に、「問いに正しく答える」こと。

デカルト(方法叙説)は、合理的な思考法について、

- ① 即断や偏見を排除し、疑う余地のないもの以外は、判断の中に入れないこと。
- ② 検討対象事項は、できるだけ解決に必要と思われる多数の小部分に分割すること。
- ③ 最も単純なものから、複雑なものに至る秩序立てた思考をすること。
- ④ 検討対象事項について、もれなく広く検討すること。

(1)、学習において身につけるべき3つの能力とは、

・択一の場合→ ①「見てわかる力」(広い知識が要求される)

・論文の場合→ ②「生みだす力」(知識を思いだす力+造りだす力=論理的思考力が前提)+ ③「問いを立てる力」(出題者は、何を期待して出題したのか)。

*「思考」とは、頭の中の「既有知識」の間に、新たなネットワークを構築する作業である。

(2)、「問いに正しく答える」には(=②「生みだす力」・③「問いを立てる力」)。

「試験問題は、受験生の何(どのような能力)を試しているのか? (*論文試験における各科目の出題の意図(趣旨)から考える。*)」。

↓
「①基本知識」+「②応用力」+「③論理的な文章(論述力)」である。

つまり↓
①「基本知識」とは → 原理・原則・制度の趣旨・定義。

+
②「応用力」とは → 問題点(論点)=考え方が分かれるもの(例外)

・例外は、原理・原則の修正(組み替え)の「必要性・許容性」の思考なくして、妥当な結論の論証は不可能である。

+
③論理的な文章(論述力)とは → (論文とは)論理的な文章であり→「仮定・前提」→「(矛盾・飛躍等のない)理由」→「結論」。

a)、「仮定・前提」

↓

b)、「(矛盾・飛躍等のない)理由」

↓

c)、「結論」

・論理的・合理的な思考の表現形態の→ルールをつかめ。

* 上記3点をマスター…→「使える知識(=理解すること)」となる*

・事例や具体例列挙問題は→知識量ではなく、「使える知識」の有無を試すものである。

(3)、問題解決の3ステップ

①問題の発見 ←問題意識(なぜ・どうして)

↓

②問題の定義 ←問題変換(問題点の発見・絞り込み)

↓

③問題の解決 ←解決方法の模索(基本知識・原則・例外等)

↓

答案作成

「問題文の読み方・思考方法」

a)何が問われているのか→文末をチェック。

↓

b)何を前提とするのか。

↓

c)では、本問では何が問題(点)となるのか。

↓

d)具体的な解決方法(原則での対応の可否・例外の必要性)は。

↓

e)結論(問いに対応したもの)は。

(4)、初学者とフロの問題解決に対する認識ネットワークの差異

①「初学者の認識ネットワーク」

ある事項

↓

A B C

②「フロの認識ネットワーク」

基本概念

↑

基本法則

↑

ある事項

↓

A B C

上記②「フロの認識ネットワーク」の特徴は、「どのような考え方」に基づき→「何を・どこ

で論述すべきか、という「階層構造的(体系的)」であること。

(5)、勉強法

①「テキストの編集モデルは」

- ・一般的に、演繹的編集モデルが多い…**総論** → **各論1** → **各論2**
- ・初学者には、帰納的編集モデルが望ましい…**各論1** → **総論1** + **各論2** → **総論2**
- *「演繹法的(一般ルールを→ある事実にあてはめる)思考」と「帰納法的(ある事実を→一般ルールにあてはめる)思考」。

②「基本知識習得に際して前提となる視点・思考」

- ・樹(個別知識)と森(体系)のバランス＝「総論」と「各論」の関係。
- ・「思考の枠組(体系)」→「具体的な内容(原則・例外)」。

「原則→不都合→修正(例外)パターン」

- ①問題提起(問題点)
- ↓
- ②本来(原則論)
- ↓
- ③しかし(原則の不都合性)
- ↓
- ④そもそも(趣旨)
- ↓
- ⑤したがって(結論)

- ・「なぜ・どうして」を考え抜き→個別(既有)知識のネットワーク化(有意味学習法)。
- ・「目的→手段(具体的な方法)」。
- ・2項対立法的思考(原理・原則)論→「例外」論・肯定→否定・全体→部分)。
- ・「要素還元論的思考」→ある事項を、多数の小部分(要素)に分割する。

II、各科目の仕組み(学問体系)・思考方法・構造の把握。

(1)、「H22の出題問題の検討(TAC講師の講評)」

- *「民法」＝ある私法紛争を解決するには→「事例から法的事実を把握・分析」→「要件」→「解釈」→「効果」→「結論」。
- ・事例に即した→「問題提起」→「規範定立」→「あてはめ」→「妥当な結論」。

「問題1」、本問は、／留置権というややマイナーな分野からの出題ではあるが、／小問(1)及び(2)・①は基本論点に関する問題であり、／また、小問(2)・②は応用論点に関す

る問題とはいえ、／参照条文、問題文、小問(2)・①によってヒントが与えられているため、／たとえ判例を知らなかったとしても、／十分対応できる問題であったといえよう。
「問題2」、本問では、・・・3つの判例が題材とされていることから、論点も多岐に亘る。さらに、いずれの論点も、専門的・特殊なものであって、判例を知らなければ、問題点を把握することも困難と思われる。上記のことから、本問は、知識のみならず、答案作成の技術・スピードまで要求される、かなりの難問と評価できる。

- *「経済学」＝合理的な経済行動・ある現実の経済現象を分析するには→「仮定・前提」→「各要素の関係(＝モデル化)」→「結論」→現実の経済現象への適用(＝モデルの実証)

「問題1」、(ミクロ経済学の市場の失敗の理論「外部不経済」)

「問題2」、(マクロ経済学の「資産効果を検討したIS-LM分析とAD-AS分析」)は、ともに基本的な経済モデルの理解を試すものであり、両問とも比較的高い得点が可能と思われる。

- *「会計学」＝企業の経営・財政状態を明らかにするには→各種概念・原則の知識を前提に→「認識基準(原則・例外)」→「評価・測定」→「表示(損益・貸借・計算書)」。

「問題1」、「キャッシュ・フロー計算書(C/F)」からの出題です。・・・細かな表示区分や計算問題、財務分析の内容までも含む、解答作成が相当困難であった問題と考えます。

「問題2」、「有形固定資産の評価」からの出題です。・・・小問(1)取得原価主義と時価主義の対比問題という点にきがつけば、しっかりとした解答作成ができた予想します。
(2)固定資産の自家建設による取得原価の決定に関する問題です。(3)トピックでもある資産除去債務からの出題です。(4)公正価値の論点は大きなテーマであり、じっくりと対応するとなると相当の内容と時間を要する出題です。

- *「鑑定理論」＝対象不動産の適正な「価格(賃料)」を把握するには→「(土地の特性・価格の特徴を前提とする)理論」→「どのような行為(手順・手法・分析)をすべきか」→「具体例は(事例は・何に・どう影響し・不動産価格にどう影響するのか)」。

近年の論文問題は、単に「基準」「留意事項」の文言を貼付けるだけでは解答として不十分で、「基準」「留意事項」の文言の適切な引用に加え、いかに題意に即した具体的な説明ができるかが勝負所となっている。

「問題1」、小問(1)は、個別的要因の意義を述べたうえで、設問の「埋蔵文化財の有無及びその状態」がマンション適地の個別的要因である理由と、調査手続き上の留意事項について、総論第3章の「留意事項」から引用して述べる。小問(2)は、前半では、更地の意義・評価方法・マンション適地に係る開発法の意義を述べ、後半では、設定の「周知の埋蔵文化財包蔵地」に該当することと開発法とお具体的な対応関係について説明手順のうち、特に①開発諸費用の査定と埋蔵文化財に係る試掘費用等との関係、②開発スケジュールの想定と試掘・発掘

等に要する期間との関係、③投下資本収益率の査定と土木工事等の停止・禁止等に係る事業リスク等との関係に着目して説明する。

「問題2」、小問(1)は、ERの定義と主な記載内容、証券化不動産評価におけるERの活用と留意点について、「基準」各論第3章及び「留意事項」各論第3章から引用して述べればよい。

小問(2)は、まず、証券化不動産評価における「専門性の高い個別的要因」に関する調査の意義について触れ、調査を要する8つの項目を「基準」から引用して列挙すること。次に、鑑定評価上の留意点については、かなり難度の高い論点だが、「ERの作成時点が古い＝価格時点までの間に増改築や耐震補強工事等の追加投資等がなされている可能性がある」ことを示し、項目ごとに留意すべき点について説明できればよい。

「問題3」、省略。

「問題4」、省略。

＊「試験委員の出題の意図」は？

(2)、各科目の学習方法の共通点。

①学問体系→目次(編・章・節)「定義→原則→例外＝具体例」の活用。

②知識のインプットとアウトプット→日本語の構造(単文・複文・重文)の活用。

・定義→「要素1」＋「要素2」→「関連」→「結論」。

・「単文」→主語＋述語

・「複文」→A主語＋「B主語＋B述語」＋A述語

・「重文」→[A主語＋A述語]＋[B主語＋B述語]

III、制限時間内での処理対策は。

①基本問題のマニュアル化(仕組みを知る)→(論証ブロックの作成)

↓

②応用力＝(基本パターンの修正)方法の習得。

③「やる気とコツ(思考方法)」を掴むこと。

以 上

「× モ」